03

BOOK-GUIDE

平田地域の本

平田地域は、出雲平野を東流する斐伊川の河口付近にひらけ、北は日本海、東は宍道湖に面した山紫水明の町です。

かつては雲州木綿の集散地として栄え、妻入り土蔵造りの伝統的な町並みは、その昔日の繁栄を今に伝えています。

また、中世には出雲大社と並ぶ勢いのあった天台宗の古刹・鰐淵寺や、眼の薬師として古くから篤い信仰を集める一畑薬師があるほか、特色ある民俗文化財の平田一式飾りが受け継がれる歴史文化遺産に恵まれた土地柄です。

さらに、宍道湖岸には、宍道湖グリーンパークや宍道湖自然館（ゴビウス）などの豊かな水辺環境を活かした施設や、山陰最大規模のスケート場をもつ湖遊館があります。

03 平田地域の本

BOOK GUIDE

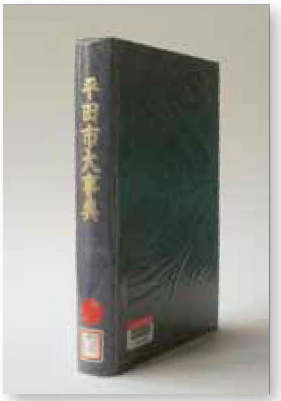
平田地域全体

●ひらたしだいじてん

平田市大事典

著者名 平田市大事典編集委員会　編
発行者 平田市役所　出版年 平成12年（2000）

事



市制施行４０周年を記念して、２０世紀から２１世紀への架け橋となる記念すべき年に発刊された、平田に関する大事典です。

本書は、平田が歩んできた歴史、政治、経済、文化など、あらゆる分野について、1,５００項目を厳選して五十音順に解説したもので、この一冊で平田市の概要がわかるように編集されています。また、専門家による項目解説は、最新の研究成果と資料をもとに、豊富な写真や図版も盛り込みながらわかりやすく表現され、さらに項目の末尾には参考文献を掲げることによって、さらなる理解への手助けとしています。

巻末には資料編として、平田町略図（昭和２７年）、平田市年表、明治３２年頃の旧町村界など、２８項目にも及ぶ統計、図面、一覧表などを付記し、内容の充実が図られています。

●しゃしんはかたるしょうわのひらた

写真は語る昭和の平田

著者名 田中久雄
発行者 島根印刷　出版年 平成20年（2008）

写　歴

遠のく昭和を何らかの形で残すために、写真館を開業している著者が発刊した昭和の平田をテーマとした写真集です。

本書は、昭和の平田の田園風景や町並み、そこに生きる人びとの暮らしを、写真家としての鋭い感性で写し込んだ貴重な写真集として、後世に引き継がれる遺産といっても過言ではありません。

行政が発刊した写真集とはひと味違う、思いのこもった本書は、まさに著者の人生そのものを写し出したものともいえます。

●しゃしんでみるひらたのあゆみ

写真で見る平田の歩み

著者名 平田市写真集編集委員会　編
発行者 平田市総務課　出版年 平成8年（1996）

写 歴

市制施行４０周年記念事業の一環として発刊された写真集です。

本書は、明治初期から今日までの平田市の歩みを、約１,３００点の写真を通して眺めたもので、平田の特色を出すために、一畑軽便鉄道の電車に関わることや平田船川にまつわること、多くの水害などを、特に重点的に取り上げています。

平田市の誕生から現代までを、産業、教育、風俗・行事・祭礼、景観、災害・防災、交通、文化・娯楽・スポーツ、公共・医療・福祉・その他の施設、人物誌にわけ、懐かしいモノクロ写真に短い解説を付けて綴っています。

この一冊を読むと、平田のこれまでたどってきた歴史がよく理解できる貴重な写真集といえます。

●しまねはんとうひらたのれきしさんぽ

島根半島「平田の歴史散歩」

著者名 「平田の歴史散歩」編集委員会　編
発行者 平田郷土史研究会
出版年 平成6年（1994）

歴

山陰中央新報社の企画で連載された「島根半島散歩」のうち、平成５年２月から平成６年５月までの1年４カ月にわたり連載された平田市篇５５話を、一冊にまとめて発刊したものです。「島根半島に残る伝説、風俗、文化、産業などを多角的に紹介し、ふるさとを見直し、活性化を図っていく」ことを目的とし、平田郷土史研究会の会員が中心となって執筆しています。

島根半島には、歴史風土に彩られた特有の文化があることを、改めて実感させる一冊といえます。

●ひらたしのむかしばなし

ひらたしのむかし話

発行者 平田市老人のための明るいまち推進協議会
出版年 昭和54年（1979）

社

昭和５１年度から３年間、国の指定を受けて実施した「老人のための明るいまち推進事業」のひとつとして発刊した刊行物です。

本書に掲載された昔話は、老人の回想や伝承を、平田市内（１１地区）の各地区ごとに区分けし、約１００話を収録しています。そこに住んで暮らしている人にしかわからないような話も多く、貴重なふるさとの宝物として、後世に引き継がれていくものといえます。

●ふるさとひらたのむかしばなし

ふるさと平田の昔話

著者名 木佐紀久　発行者 平田市文化団体協議会
出版年 昭和61年（1986）

社

本書は、昭和５２年３月から約１年間にわたって平田の有線放送で流された４２回の話の原稿を、遺稿集として一冊の本にまとめたものです。

平田をこよなく愛し、平田の生き字引ともいわれた著者が、幼少の頃から見聞した興味深い話を満載した本書は、平田の昔に思いを馳せることのできる格好の書物です。

また巻末には、「平田市内史蹟めぐり」の録音や「妻入り土蔵造」、「平田の歴史」の転載記事のほか、「父の思い出」として写真や回想録が載っており、生前の著者を偲ぶことができます。

●あめのもりせいおうとそのしゅうへん

雨森精翁とその周辺

著者名 岩成虎夫　発行者 平田郷土史研究会
出版年 平成10年（1998）

人　哲

岩成虎夫が『たてぬい』に連載した「雨森文書」に関する研究を、遺稿として一冊にまとめて発刊したものです。

精翁の資料が平田市に寄贈され、それを克明に整理し目録を作成する過程において、その研究成果を発表したもので、精翁についての文献が多い中で、その周辺の人びとにも触れた著作はほとんどなく、その意味では大いに意義のある刊行物といえます。

●たてぬい

たてぬい

発行者 楯縫文庫
出版年 昭和55年（1980）～平成18年（2006）

歴

楯縫文庫を主宰した角秋義（すみあきよし）が、発刊した機関紙です。

開館と同時に創刊され、以来隔月で発行された１０頁の逐次刊行物として、随筆、評論、書評、川柳、短歌、俳句など幅広い誌面構成で親しまれました。惜しまれながら第１２９号をもって終刊となりましたが、楯縫文庫とともに、この間の四半世紀は平田の文化活動の推進役として貢献し、その果たした役割は大きいといえます。

●ひろくつたえたいひらたのあじ

広く伝えたいひらたの味

著者名 出雲農業改良普及所ほか　編
発行者 平田市　出版年 昭和58年（1983）

技

本書は、海・湖・山・里の豊かな自然に恵まれた平田の食の幸を一冊にまとめたものです。

平田の風土が生み出した郷土色豊かな料理法を、「伝統・行事食」、「湖海の幸」、「山里の幸」、「ごはん類」、「漬けもの」、「惣菜」、「おやつ類」にわけて、それぞれの料理の材料、作り方のほか、コツや一口メモをつけて紹介しています。

また巻末には、「歴史的にみた平田の郷土食」として、大正時代の平田の町屋と農山村の食生活について触れた小論が掲載されています。

平田地区

●ひらたのしおり

平田の志をり

発行者 来間泰三郎
出版年 大正11年（1922）

歴

平田の全てがわかるように、コンパクトに編集し発行された冊子です。本書は、総説に始まり、沿革、教育、神社、諸会社など、１７項目に区分して端的に紹介したのち、附録として各業種ごとの店舗を掲載しています。

巻頭と巻末には、店舗の広告も載せていますので、特に当時の商工の状勢を知るうえでは参考になる一冊です。なお本書には、復刻版も発行されています。

●きんせいひらたのまちなみとぶんか

近世平田の町並みと文化

発行者 平田郷土史研究会
出版年 平成17年（2005）

歴

平田市５０周年記念事業の一環として開催された平田郷土史研究会設立２０周年記念大会の発表要旨をまとめた資料集です。

本書は、４人の発表者が、「近世日本の中の雲州平田」、「絵図でみる平田の歴史と永代万留帳」、「近世・平田の町並みを探しに歩く」、「近世の楯縫郡における学問・医業修行について」をテーマに、それぞれの視点から近世の平田の姿を描き出したものです。

論文ではなく発表要旨のため、短報ですが、要領よく端的にまとめられていますので、主要産業であった木綿流通の側面からアプローチした近世平田の姿など、興味ある話題について深く知ることができます。

灘分地区

●なだぶんきょうどし

灘分郷土誌

著者名 灘分郷土誌編集委員会　編
発行者 平田市灘分公民館　出版年 平成3年（1991）

歴

斐伊川の変遷と大きくかかわってきた灘分地区の郷土誌です。近世以降、幾度かの斐伊川の河道変遷、とりわけ大改修を経験した歴史的経緯から、本書では、第３章「斐伊川の変遷」、第４章「斐伊川改修と離村・移住」に多くの頁を割き、地域の特性について言及しています。

また、かつては入海で、斐伊川の沖積作用によってできた新たな土地を開拓した本地区らしく、第２章「郷土の沿革」も、他地域のような原始・古代からではなく、中世から筆を起こしている点が、大きな特色となっています。

●なだぶんこうみんかんかいかんごじっしゅうねんきねんし

灘分公民館開館50周年記念誌

著者名 灘分公民館文化部
発行者 灘分公民館
出版年 平成14年（2002）
歴

昭和２７年に旧役場内に仮設置された灘分公民館の開館５０周年を記念して発刊された小冊子です。本書は、公民館活動そのものよりも、むしろ歴代館長をはじめ、公民館主事、運営審議会会長、社会福祉協議会長など、日頃から地区に関わりの深い各界の人たちの思い出に重点を置き、「第２章発刊によせて」として多くの紙面を割いているのが特色といえます。

また、「第１章ふるさとの昔と今」、「第４章資料」のうち「写真で見る公民館活動」に載せた写真はカラーで編集され、地域とともに歩んだ公民館の半世紀を窺うことができます。

国富地区

●くにどみきょうどし

国富郷土誌

著者名 国富郷土誌編纂委員会　編
発行者 国富公民館　出版年 平成9年（1997）
歴

国富の名の由来となった要石（かなめいし）の伝承をはじめ、歴史と伝統ある国富地区では、はじめての本格的な郷土誌です。本書は、第１編に自然、第２編から第５編は原始・古代から現代までの歴史をたどり、第６編からは教育・文化・宗教、伝承と旧跡、郷土の先人、名勝・景観を記しています。また資料として、大字の変遷、字界図、歴代村長等、年表、参考文献を付して、本文を補足しています。

平田のなかでも伝承や旧跡が多く、歴史ロマンあふれる地区として注目すべき地域といえます。

●みだみのさと

みだみの里

著者名 美創会歴史・郷土誌班　編
発行者 美創会　出版年 平成3年（1991）
歴

美談２号墳の発見を契機に、郷土について調べていくなかで、美談の歴史を次代にも伝えたい思いから、郷土誌を発刊したものです。

古くから開けた美談には、寺社や文化財も多く、また斐伊川が南に流れ、一畑電鉄の電車も走る交通の要所にあります。第１篇「美談の自然環境」から第７篇「美談の明日を見つめて」までの本文は手づくりの郷土誌として、小学生にもわかるように、活字を大きくし、わかりやすく書かれています。郷土美談を知り、明日の美談を築いていくうえで、本書は大きな役割を果たす一冊といえます。

西田地区

●にしだきょうどし
西田郷土誌

著者名 西田郷土誌編纂委員会　編
発行者 西田公民館　出版年 平成8年（1996）

歴

昭和５６年の郷土誌編さんの立案以来、十有余年の歳月を経て発刊となった郷土誌です。本書は、「地誌」、「歴史」、「教育文化」、「産業・経済」に分けて記載し、第５編「資料編」として戦争の思い出などを付けています。先人の知恵と努力によって築かれた地域の貴重な財産として、次世代へ継承すべき遺産といえます。

鰐淵地区

●いずものくにふろうざんがくえんじ
出雲國浮浪山鰐淵寺

発行者 「出雲國浮浪山鰐淵寺」刊行事務局
出版年 平成9年（1997）

哲

鰐淵寺開創１,４００年を記念して発刊された寺史です。また、寺を中心とする周辺の自然環境が大切に保存されていることから、寺の歴史のみならず、保有する文化財や周辺の自然にも目配りし、深山幽谷の聖地を一冊にまとめあげています。

本書は、出雲の古刹（こさつ）である鰐淵寺について、多角的かつ学問的に取り上げた総合的な刊行物として、後世に伝えられる価値をもつ一冊といえます。

●からかわびとへ
唐川びとへ

著者名 白谷達也 写真　古澤陽子 文
発行者 「唐川びとへ」出版プロジェクト
出版年 平成21年（2009）

歴

アサヒグラフを編集していた著者が、唐川に魅せられて発刊した地域誌です。

唐川に足を踏み入れて１０年、人と人との強い絆があり、自然とともにある辺境の里人の日々の営みを見守ってきた著者が、多くの写真を折り込みながらその思いを綴っています。本書は、この地に暮らす地元の人が気がつかない、当たり前の素朴な光景の中に、ひとすじの光をみいだした鋭い感性をもつ著者ならではの作品です。

●わにぶちのこうざんし
わにぶちの鉱山誌

著著名 「わにぶちの鉱山誌」編さん特別委員会　編
発行者 平田市鰐渕公民館　出版年 平成7年（1995）

技

明治から、昭和５３年の昭和鉱業鰐渕鉱山休山に至るまでのおよそ１００年にわたり採掘された、鰐渕地域の鉱山の盛衰を記した一冊です。

本書は、明治時代には主に銀・銅を、明治末期からは主として石膏を採掘していた鰐渕地域の鉱山の歴史について、各鉱山の推移と沿革、鉱山経営の内容と災害、鉱山秘話を記載するほか、後段には、参考資料として、鰐渕地域の鉱山に触れているこれまでの文献の

記述を、まとめて紹介しています。

また、巻頭には、鉱山の推移がわかる大正初期からの貴重な写真のほか、鉱山年表、主要鉱山位置図も収録していますので、鉱山についてさらに理解を深めることができます。

久多美地区

●しまねけんひかわぐんくたみそんし

島根県簸川郡久多美村誌

著者名 原運一　編
発行者 島根県簸川郡久多美村尋常高等小学校
出版年 昭和4年（1929）

歴

昭和天皇御大典記念として編さんされた久多美ではじめての村誌です。

本書は、上篇「地文」、中篇「人文」、下篇「雑」からなり、古代からの村の歴史は掲載されていないものの、郷土誌の構成とその内容はかなり精緻で、当時の郷土誌としてはかなり優れたものになっています。平田ではじめて発刊された地区単位の郷土誌として、大いに意義のある刊行物といえます。

●くたみそんし

久多美村誌

著者名 原運一　編
発行者 平田町久多美支所　出版年 昭和29年（1954）

歴

平田町合併に伴う解村記念として発刊された村誌です。本書は、同じ編者による昭和４年の『久多美村誌』を補訂し、さらに新たな資料を加えて刊行したもので、内容構成として、昭和４年の同誌で最終章としていた「沿革」を第１章に、また、行政・財政などを「沿革」の次に配置するなど紙面構成を刷新し、全般的に村誌として洗練されたものになっています。

●きょうどしはやさめくたみ

郷土誌はやさめ久多美

著者名 久多美郷土誌編集委員会　編
発行者 平田市久多美公民館
出版年 平成4年（1992）

歴

昭和４年と昭和２９年の２冊の村誌をもつ久多美地区では、３冊目となる郷土誌です。

農村基盤総合整備パイロット事業や、治水事業、小学校移転改築事業等のめまぐるしい大きな生活環境の変容のなかで、郷土誌編さんの機運が高まり、今回の郷土誌発刊に至ったもので、それらの他にも、県内一位を誇る富有柿栽培や、国の重要文化財に指定されている大般若経を所蔵する高野寺についても触れられています。

檜山地区

●ひやまのさと

ひ山の里

著者名 檜山の歴史を綴る会　編
発行者 檜山公民館　出版年 昭和55年（1980）

歴

古い記録や記憶が急速に失われていくなかで、活字にして残しておきたいとの思いから、郷土誌が発刊されました。本書は、檜山村の解村合併までをひとつの区切りとしていますが、時代を追って、「ひ山の里の神さま」、「要石」など、要点を拾い出して解説を加えています。檜（ひ）が仙（せん）城跡や古墳の調査などは、後継者の青年たちが進んで協力をしているように、地区をあげての郷土誌づくりがなされ、それが誌面にも反映しています。「大事な字名」や「家紋と苗字」にあらわれる、地域を大切にする心が感じられる一冊です。

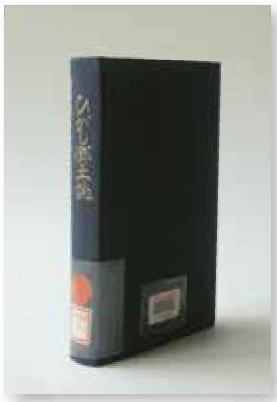
東地区

●ひがしきょうどし

ひがし郷土誌

著者名 東郷土誌編集委員会　編
発行者 東公民館　出版年 昭和60年（1985）

歴



社会情勢の変化により、変貌しつつある郷土の姿を記録に留めるために発刊された郷土誌です。東地区には、全国によく知られた一畑寺をはじめとする神社・仏閣や数多くの史跡、文化財、伝承があり、これらを後世に伝えるために第9章以降に詳述しています。また、地区内で多い梶谷、角、坂本、堀内などの苗字についての考察や、地域の余話として、小境灘や一畑寺の周辺、旱魃（かんばつ）と豪雨についても触れています。

佐香地区

●きょうどしさか
郷土誌さか

著者名 佐香郷土誌編纂委員会　編
発行者 佐香公民館　出版年 平成12年（2000）

歴

地区の歩んできた変遷をさまざまな角度からとらえ、それを記述した佐香で唯一の体系的な郷土誌です。

本書には、主な産業である漁業と、漁村の生活・慣習など、海に面したこの地区ならではの特性が記され、また一畑薬師にまつわる赤浦の伝承などの興味深い記述もみられます。

さらに、第6編「宗教」の項にみられるように、古老の話を盛り込むなど、郷土誌編集段階での熱心な取り組みがうかがわれます。

伊野地区

●いのきょうどし
伊野郷土誌

著者名 伊野郷土誌編集委員会　編
発行者 伊野公民館　出版年 平成5年（1993）

歴

伊野をよく知る在地の執筆者が、さらに足で歩き、調査して発刊した郷土誌です。

本書は、「伊野地区の地形・地質と地名」のあとに、古代から平田市への合併までの歴史を説き、さらに教育・宗教・伝承について記しています。なかでも、近世における池尻本陣についての記述は、注目に値する労作といえます。

なお近世の池尻家文書は、伊野の文化遺産ともいえるもので、伊野郷土誌資料集として、本書の巻末に抜粋して収録されています。

なお、「伊野出身の医学博士古城憲治について」ほか3編の論考が、追録第1集として発刊されています。

北浜地区

●いずもきたはまし

出雲北浜誌

著者名 出雲北浜誌刊行委員会　編
発行者 北浜自治協会　出版年 平成23年（2011）

歴

平成の大合併で出雲市になり、また北浜公民館が北浜コミュニティセンターに名称変更になったのを契機に発刊された地方誌です。

巻頭の航空写真でもわかるように、島根半島の険しい海岸地形の半農半漁の北浜地区ですが、風光明媚な浦々をはじめ、古代からの歴史をもつ島根ブランドの十六島紫菜（うっぷるいのり）や大般若経、十六善神（じゅうろくぜんじん）の言い伝えなど歴史的に誇れる地域の特性について、詳しく述べています。

また、失われつつある地名についても、明治２２年に調整された「切図」のほか、北浜地区の皆さんの協力を得て、地元で伝えられてきた小地名も収録していることは、地方誌の原点ともいえる貴重な成果といえます。

さらに、本書の編集にあたっては、地域外の研究者のみならず、「第７章補論」の１３項目については、地元をよく知る地区内の委員も執筆に加わり、一層の内容の充実が図られています。

出雲の開拓者

人

出雲平野は、斐伊川と神戸川によって形成された沖積平野です。『出雲国風土記』が編さんされた奈良時代には「神門水海（かんどのみずうみ）」とよばれる大きな潟湖（せきこ）があり、江戸時代になっても埋まりきらずに沼沢地がかなり残っていました。

現在見られるような水田は、江戸時代の郷土の開拓者の並々ならぬ努力の賜物といえます。その功労者の筆頭は大梶七兵衛（おおかじしちべえ）で、高瀬川を開削して斐伊川の水を荒木浜に引き、荒地を水田に変えたほか、十間川（じっけんがわ）を開削して南部の山沿いを開拓しました。また、浜山に植林した井上恵助（いのうええすけ）や、堀川を掘削して悪水を日本海へ放流した三木与兵衛（みきよへえ）、長浜の湿地を開拓した秦喜兵衛（はたきへえ）など、多くの先人の知恵と労苦によって、出雲平野の美田が形づくられ守り継がれています。

<開拓者一般>

簸川郡偉人篤行者伝

発行者 簸川郡私立教育会
出版年 大正8年（1919）

<大梶七兵衛>

大梶七兵衛と高瀬川

著者名 石塚尊俊
発行者 出雲市教育委員会
出版年 昭和62年（1987）

出雲の虹

著者名 村尾靖子
発行者 岩崎書店
出版年 平成14年（2002）
児童本

<井上恵助>

浜山と井上恵助 砂との闘い

発行者 井上恵助翁研究会
出版年 平成17年（2005）

<三木与兵衛>

出雲平野の開拓 三木与兵衛の偉業

発行者 小山町郷土史研究会
出版年 平成4年（1992）

<秦喜兵衛>

秦喜兵衛とその一族 西園・茅原の開拓者

著者名 秦英文
発行者 長浜地区コミュニティセンター
出版年 昭和58年（1983）